

## 学会ニュースNo.99 トピックス

- ・2010年度(第65回)総会・研究発表大会プログラム
  - ・秋季例会(徳島), 講演会ならびに臨地研究会開催のお知らせ(第1報)
  - ・会声便り-東京都の高校日本史必修化の動きについて
  - ・地理学教室だより-新任のあいさつ
- ・会費納入のお願い

## 会 告

### ○2010年度(第65回)総会・研究発表プログラム

日 時:2010年6月5日(土)9:40より

会 場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ 2階(A205教室(発表会場)・A201教室(会員控室))

《**口頭発表1**》 9:40~11:20 \*は発表者 発表時間:口頭発表は20分(質疑応答を含む)  
9:40~10:00 亀井啓一郎(立正大・非):立正大学図書館田中啓爾文庫所蔵の未整理地図のデジタル化

10:00~10:20 初澤敏生(福島大):天童将棋駒産業の変容

《**口頭発表2**》 10:20~11:20

10:20~10:40 小川滋之\*・小澤有司(千葉大・院):秩父山地の地すべり地に分布する森林の特徴

10:40~11:00 小松陽介(立正大):日本に到達したチリ地震大津波の分布と新聞社説にみる防災意識の地域差

11:00~11:20 河野 忠(立正大):茨城県に分布する六名水の研究

《**ポスター発表紹介**》11:20~11:30(各発表1分程度)

※掲示時間は10:00~16:00, コアタイムは13:20~13:40とします。

P1 飯野陽子(立正大・院):年候からみる南西諸島と小笠原諸島の気候区分

P2 崎浜 靖\*(立正大・院)・鈴木厚志(立正大):近代先島諸島におけるマラリア有病地の空間表現—石垣島の例—

P3 佐藤竜也\*・中里聡一郎・菊地郁恵・菊地裕之・森村 健(立正大・学)・原美登里(立正大):群馬県中之条町周辺の水質について

P4 助重雄久(富山国際大):観光客にわかりやすい案内地図とは?

P5 高木 亨(立正大・非)・浜田大介\*・田村健太郎・吉池 隆・佐藤亮太・佐藤竜也・清水康志・大塚隆弘・鳥海真弘・高橋 琢(立正大・学):熊谷の小麦粉文化について—熊谷地域研究会中間発表—

P6 町田尚久(立正大・院):荒川流域に介入した人為の影響と河川地形の応答—Dynamic Equilibriumの視点から—

P7 好田誠弥(立正大・院):「地球地図」を利用したデジタル地誌教材づくり—モンゴルを事例に—

2010年5月

《総会》11:30～12:20 研究発表大会会場で行います。  
田中啓爾記念地理学奨励賞授与式(予定)

《昼休み》12:20～13:20

《ポスター発表のコアタイム》13:20～13:40

10分 休憩

《口頭発表 3》13:50～15:10

13:50～14:10 浜田大介\*・田村健太郎・大塚隆弘・佐藤竜也・佐藤亮太・清水康志・高橋  
琢・鳥海真弘・吉池 隆(立正大・学):いわき市川前町高部集落における過疎地域の現  
状と課題

14:10～14:30 松尾 宏(利根川研究会):江戸期熊谷から西国・九州への旅の考察

14:30～14:50 橋田光太郎(西南女学院中高):観光地・北九州市門司港「レトロ」地区の形  
成過程

14:50～15:10 永野征男(日本大):幻に終わった“大船田園都市計画”

10分 休憩

《口頭発表 4》15:20～16:40

15:20～15:40 谷口智雅(立正大・非):バンコクにおける寺院の立地要因

15:40～16:00 岡田 登(太田市):太田市における農業用水路の維持管理

16:00～16:20 戸田真夏(青山学院大・非):ネパール、トリスリ川上流域における発電

16:20～16:40 大山正雄:アイスランドの自然と産業

《懇親会》17:00～19:00 ステラ1階

《地理写真展示》※掲示時間は10:00～16:00

G1 神田道男(立正大・院):首都の変化—東南アジアの開発—

G2 木戸朋克(立正大・院)\*・荒井順也・三浦圭乃子(立正大・学):伊豆半島北部における  
自然環境と人間生活

G3 小松陽介(立正大):立山・黒部の自然環境

G4 宍戸隆史(立正大・院)\*・田村健太郎・佐藤亮太・浜田大介(立正大・学):台湾の自然  
環境と人間生活(2009年度海外フィールドワークより)

G5 中山直哉(立正大・学):中田島砂丘の環境と形成(2009年度セミナーおよびフィー  
ルドワークF)

G6 橋浦祐一(立正大・学):自然環境と集集地震跡地(2009年度海外フィールドワークI・  
II台湾)

G7 松尾 宏(利根川研究会):伝統的建築物群(広島・海辺の町編)

G8 吉池 隆(立正大・学):平成19年台風9号が荒川にもたらした洪水の姿—埼玉県さい  
たま市西区付近—

G9 渡辺 学(立正大・学):大井川上流域の穿入蛇行地形(2009年度セミナーおよびフィー  
ルドワークF)

G10 2009年度地理調査法およびフィールドワークFクラス(立正大・学):御蔵島・三宅島の  
自然環境

## ○秋季例会(徳島)・講演会・臨地研究会開催のお知らせ(第1報)

第34回立正地理学会秋季例会ならびに第39回講演会を11月6日(土)に、第107回臨地研究会を翌日11月7日(日)に、徳島にて実施する予定です。尚、秋季例会と講演会につきましては四国大学交流プラザにて実施します。日時・場所および発表申込みと参加に関する案内は、6月下旬頃、立正地理学会ホームページ(<http://www.ris.ac.jp/geosoc/>)にてお知らせします。皆様の参加をお待ちいたします。

## ○会員の声

会員の皆様からの声を募集いたしております。内容としては地理学にとって連報性の必要があるものまたは広く会員へお知らせするものを学会ニュースに掲載したいと思えます。ただし原稿に関する責任は投稿者にあるものとし、については投稿者の連絡先も合わせて掲載することをご了承の上、寄稿下さい。投稿についてはメール、郵送(この場合、CD-R もしくはDVDと印刷物の両方、FD不可)でお願いします。

今回は多田統一会員の寄稿がありましたので掲載致しました。

## 東京都の高校日本史必修化の動きについて

1月21日読売新聞夕刊によると、東京都教育委員会が全都立高校で日本史を独自に必修科目とする方針を固めた。日本史の必修化については、すでに神奈川県と横浜市が導入することを決めている。東京都でも、230校のうち、約半数がすでに校長判断で日本史を必修としている。学習指導要領では、地理歴史科で、唯一世界史が必修となっており、地理を選択する理系進学希望者が、日本史を敬遠する傾向にあった。日本史必修の主張は、かねてからあった。それは、日本の歴史を知らなければ、自分の思考や価値観を世界の人々に説明できないという論拠からである。世界史が必修であるだけに、そこで影響を受けるのが地理である。

さっそく、東京都地理教育研究会は、2月1日に、緊急の対策会議を開催した。筆者は、都合で出席できなかったが、事務局宛に意見書を送付した。日本史が必修になった場合、地理の入りこむ余地は極めて少ない。筆者が勤務する商業の定時制では、カリキュラムから地理が消えてしまう。定時制では、現在でも地理のない学校が多く、生徒に与える影響が大きい。「地理の先生」と呼ばれないことの寂しさは、経験した者でしか分からない。また、地理の基礎知識・基礎学力のない者に、国際理解や環境問題に対する真の理解は難しいであろう。

マスコミ報道の震源地は知事部局であるらしいが、東京都教育委員会はかねてより日本史必修を文部科学省に要請している経緯があり、地理必修化の要求は、遅きに失した感がある。これは、現場教員の責任というより、教育改革の動きの早さ、行政による圧力と解すべきであろう。日本史必修化に対する反対の立場は、筆者のような一般教員だけでなく、管理職も含めた地理の教員の共通したものと思われる。

しかし、問題は、歴史の教員の中に、日本史必修を支持するものが多いということである。しかも、地理歴史科の中に占める、歴史の教員の勢力は大きい。教科構造全体の中で、地理と歴史の教員の共通理解が今こそ必要である。地歴融合科目についての議論も行なわれてきているが、研究会レベルでの地理と歴史の合同大会は実現していない。公民科の方は、早くから科目間の整合性についての議論が行われてきており、合同大会も実現している。

政治力を伴う強力な動きであるだけに、いまさらこれを食い止めることはできないであろう。神奈川方式のような学校設定科目「地域史」を要求して、そこに地理的な内容を組み込んでいくといった具体策もあるが、これも主導権を地理が取るか歴史が取るかによって違ってくる。これからの若い地理の教員は、歴史も教えられなければならない。歴史の教員に転向することだってあり得る。

今回の動きは、教員養成にも大きな影響を与えるであろう。センター試験での地理の受験者の減少、地理学科への進学者の減少、大学のカリキュラムへの影響が心配である。教育現場では、地理の教員の採用が激減し、地理の教員が歴史の教員として異動することも現実に起こってくる。

学習指導要領の理念からしても、問題のある今回の東京都の日本史必修化の動きは、国民教育レベルで見ても、今後に禍根を残すであろう。地理教育の危機が叫ばれて久しいが、いよいよその最終段階に来たという感じがする。今こそ、地理教育関係者の叡智を結集すべき時であろう。

多田統一（東京都立荒川商業高校・定時制）

## ☆地理学教室だより☆

地理学科では今年度から新しい先生を3名お迎えいたしました。

今回の地理学教室だよりでは、立正OBでもあり新任の松井秀郎先生と高田明典先生、そして新しく着任された鈴木重雄先生にお話をお伺いしましたので掲載いたします。

### ○松井秀郎教授より挨拶

平成 22 年4月1日に文部科学省から地球環境科学部地理学科に赴任した松井秀郎です。文学部地理学科から文部省に転職し、14 年間の教科書調査官・主任教科書調査官の公務員生活を経て、教員生活に戻る事となりました。

文部省・文部科学省時代には地図・地理教育に関わる講演や講演を基にした報告書の執筆など、また中国やベトナムの人口などに関する論文を執筆しました。もともと、自然と人間との関わりを重要視する地理学において、人口の研究に関心



を持って研究を続けてきましたが、人口という面だけではなく、地域における人口の存在形態を地理的に究明したいと考えています。また、伝統ある立正大学の地理教育の発展にも、教育行政経験から視点をあてられればと願っています。

私の学生時代は 1970 年の日米安保闘争の影響から幕開けしました。すなわち、昭和 44 年に大学入学となる入学試験は、お茶の水大学を除くほとんどの国立大学の地理を専攻する学科で中止となり、御陰で 1925 年(大正 14)からの私立大学で最も長い系譜をもつ立正大学の地理学科に入学することとなりました。しかし、授業は正常に行われたわけではなく、ヘルメット姿の学生が授業に乱入してきて「これからこの授業を闘争集会に切り替える」などと叫んだりして、これを排除してまた教授を迎えに行ったりしていた状態でした。そこで現役から三浪までの多士済々の学生有志で「地理巡検会」を結成して、日曜などに日帰りの巡検を先生方をお願いしたりしていました。とにかくこの大学紛争の顕著だった時期の入学生には多彩でユニークな人材が多かったと思いますし、現在の同級生の生き方を見ても、

各人各様に好きな地理を活かして社会人生活をおくってきたことがうかがえます。

当時の就学形態では、東京都・神奈川県出身者以外は1967年(昭和42)にスタートした熊谷校舎で教養課程(1・2年次)を学ぶこととなり、私も2年間を熊谷市で過ごす事となりました。今から41年も前の事ですが、現在の大学キャンパス内は素晴らしいものの、その期間に見合わない周囲の生活環境の変化のなさに驚いているところです。

卒業論文については私の出身地の富山市を取り上げ、「富山市における都市化」という題で故稲永幸男立正大学名誉教授の下で作成しました。またこの一部は、その後1974年(昭和49)に富山県経済月報通巻154号に「地域偏差値からみた富山市の人口の変動について」として発表しました。卒業論文は、大学卒業時までの自分の能力を全力で形にして現せる貴重な体験です。きっと生涯の記憶に強く残ることと思います。私もまた、若い方々と新しい自己発見が出来ればと願っております。よろしくお願い申し上げます。(松井 秀郎)

## ○高田明典講師より挨拶

今年の4月から立正大学地球環境科学部地理学科に赴任しました。よろしくお願いいたします。私は、大学、大学院修士課程、大学院博士課程と立正大学にお世話になりました。その後、(財)日本地図センター地図研究所の研究者として勤務していました。立正地理学会は学部1年の時から参加していますが、今後も発表や論文執筆等、精力的に活動していきたいと思っておりますので、会員の皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

### 研究内容

私は、耕作放棄地の研究をしています。耕作放棄地とは、使われなくなった農地のことで、日本ではその面積が拡大し、大きな社会問題となっています。またそれは、地域における土地利用および土地所有の変化、社会的組織や協業関係の変化をみる一つの指標でもあります。

### 大学時代

大学時代は、とても真面目な学生でした。大学院時代も真面目を絵に描いたような学生だったと自分では思っていますが、残念ながら周りの先生や友人たちは誰一人そう思っていないようです。卒論は、澤田裕之先生のゼミで、阿武隈高地における遊休桑園の分布について研究しました。卒論から博士論文に至るまで、「耕作放棄」に関連した研究をずっとしていました。出来の悪い学生だった私ですが、卒論・修論・博論と澤田先生の熱心な指導のおかげで、学位を取ることができました。



## ○鈴木重雄助教より挨拶

助教に着任しました鈴木重雄です。神奈川県生まれですが、5年ほど広島、京都と移り住んできましたので、久々の関東です。竹林を題材に里山の人間と生態系の結びつきを植生地理学、景観生態学の視点から研究しています。よろしくお願いいたします。



## ○会費納入のお願い

今回の学会ニュースには「会費納入状況のお知らせ」を同封しております。2010年度分会費は、同封致しました払込取扱票にてご納入下さい。過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円  
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下のとおりとなります。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際には、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

(庶務会計委員会)

### 編集後記

5月も半ばに入り、暖かい日も多くなり、熊谷の校舎内は桜色から緑色に変わりました。来月はいよいよ立正地理学会の総会・研究発表大会が行われます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(広報委員・須田 恵里香)

## 立正地理学会ニュース No.99

2010年5月13日発行 編集者 立正地理学会広報委員会

発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内

電話 048-539-1670 振替 00130-8-13453